

令和5年度 総合的な学習の時間 全体計画 江戸川区立篠崎第二小学校

校長名 高橋 宏幸

名称:篠二わくわくタイム

学校の教育目標	光る子 一心豊かに、たくましく
---------	-----------------

国が示す総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究的な学習の課程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。

(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

学校の総合的な学習の時間の目標

- 1 1年を見通した総合的・探求的な学習を行う。(探求活動の実践)
- 2 自ら課題を設定し、主体的に問題解決をする力を育む。(主体性、問題解決能力の育成)
集めた情報を整理・分析して、内容が伝わるように発表内容を工夫する力を育む。(情報選択力、表現力の育成)
- 3 探求活動を通して、協働的に学習に取り組む態度を育む。(協同学習の実践)
自己の生き方を考えることができるようにする。(自己のふりかえりとキャリア教育の実践)

育てようとする資質や能力及び態度

知識・技能	
第3・4学年	第5・6学年
調べたいことについて、いろいろな方法を使って調べる。目的に応じた情報収集・表現方法があることを理解する。	各事象に関わる人たちの思いや活動内容を理解する。目的に応じた情報収集・表現方法があることを理解し、活用する。
思考・判断・表現	
第3・4学年	第5・6学年
収集した情報を、必要あ物とそうでないものに整理する。調べた内容を相手に分かりやすく伝えるために表現を工夫する。	情報を的確に収集し、目的を明確にして整理・分析する。相手や目的に応じた方法でまとめ、表現する。
主体的に学習に取り組む態度	
第3・4学年	第5・6学年
各事象について現状や問題を知らうとする。各事象に関わる人たちの思いや願いを知らうとする。	各事象の現状や問題を把握し、自分なりに解決しようとする。各事象に関わる人たちの思いや願いを知らうとする。
〈 情報活用力の育成 〉	
第3・4学年	第5・6学年
情報を収集する基本的な方法を知り、相手や目的を意識して、集めた情報を基に表現し発信する。(情報活用の方法の基礎を身に付けさせる)	問題解決に向けて、自ら情報を収集・選択し、その相手や目的に応じて表現して、適切に発信する。(情報活用の方法を身に付けさせる)

内容	学習対象	学習事項
第3学年	・地域の文化や伝統に力をそそぐ人々 ・地域の産業である「小松菜」の栽培	・地域の文化や伝統のもつ特徴 ・文化や伝統の継承に力を注ぐ人々の思い・生命尊重
第4学年	・身近な自然環境とその周りの環境問題 ・学校園の緑化活動	・環境問題と自分たちの生活とのかかわり ・学校の環境緑化へのかかわり
第5学年	・くらしをささえる産業と諸外国とのかかわり(SDG'sと関連させて) ・セルビア共和国大使館との交流活動	・くらしをささえる産業のよさや産業を支える人々の思い、それぞれの産業が諸外国とどのようにかかわっているか、SDG'sにおける日本の取り組みや諸外国との関わり ・セルビア共和国に関する調べ学習
第6学年	・個人で課題の設定をするテーマ学習 「世界の中の日本を考える」「将来のビジョンを描こう」	・日本の文化や伝統のよさ、歴史的背景を知る ・職業調べを通して、働くことの意義や、今後身に付けるべきことを考える ・個人での課題設定、相手に伝わる表現

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
・3年生は地域、4年生は環境、5年生は国際理解、産業、6年生は国際理解、キャリア教育を主なテーマとする ・学年ごとに1年間1～2テーマでの取組を基本とする ・3学期に行われる成果発表会を節目とした単元展開を工夫する ・情報活用、情報モラルに関する学習活動を取り入れる	・児童の関心・課題意識を連続展開させる支援 ・体験活動の重視 ・協働的な学習の充実 ・外部ICT指導員との連携を行った指導	・総合部を中心とした校内の連絡調整と支援体制の確立 ・見通しをもった学年による年間授業計画に則した学習展開 ・外部指導員やゲストティーチャーの積極的な活用	・指導と評価の一体化の充実 ・学期末、学年末における指導計画の評価と見直しの実施 ・評価規準に則した評価の重視